

2021. 9

(地独) 京都市産業技術研究所 デザインチーム (担当:比嘉, 竹浪, 木戸)
kyotonokogei@tc-kyoto.or.jp
〒600-8815 京都市下京区中堂寺粟田町91
TEL: 075-326-6100 (代表) FAX: 075-326-6200 (事務局)

No. 25 京都工芸研究会便り

新商品開発事業 キックオフ!

8/10(火)に今年度2回目のミーティングを実施。新商品開発事業を始め、今年度の事業について討議しました。



事業企画チームメンバー (左から)

谷口哲也さん(株)陶泉窯, 細垣礼子さん(竹工芸 細垣), 松田浩佑さん(鋳屋(有)松田), 辻朋子さん(辻鋳金具製作所)

京都工芸研究会が新たに発足して6年目、異業種の集まりである会の特色を生かした事業として、新商品開発事業を計画しておりました。事業企画チームでは、事業を通じて提案する工芸はどんなものか、またそれをどう世の中に発信していくのかなど、トークイベントの企画開催やその動画配信など新しい技術の活用にも取り組みながら議論し、その準備を続けてきました。

そんな中、昨年からのコロナ禍が続く中で、チームのメンバーからは、こんな時だからこそできる新商品開発事業を企画したいという声があがっています。

今なお産業や観光に大きな打撃を与え続けているコロナ禍は、京都の作り手の心象にも大きな影響を与えていると思います。生活様式が変わることで、お金の使い方が変わる。伝統工芸のありかたも変化してゆく。その変化が元に戻ることはないかもしれない。だからこそ、変革の時に“ものづくり”で本来のありかたに立ち返ろう、“私たちが作りたいもの”を見つめ直そう、という心強い意志を感じ、メンバー同士が賛同しました。

団体での展覧会や産地見学会など、対面での事業が難しい現状ですが、新商品開発事業はオンライン技術も併用し、作り手である会員の皆様をつなぐ工夫をして、コロナ共生時代にあったものづくりの方法を考えていければと思います。

具体的なテーマや参加要項などの詳細は早急に詰めて近く案内いたします。是非多くの会員の皆様のご参加をお願いいたします。



8/10(火)産技研にて。ミーティングでは、コロナ禍で生活がどう変わったかを話す中から、企画の基本的な考え方を議論した。

令和3年度総会（書面審議） 終了いたしました。

令和3年度京都工芸研究会総会書面審議は、6/28（月）までに全78会員中、42会員の返信をいただき、終了しました（回答率53.8% 報告書参照）。会員の皆様には改めてお礼申し上げます。

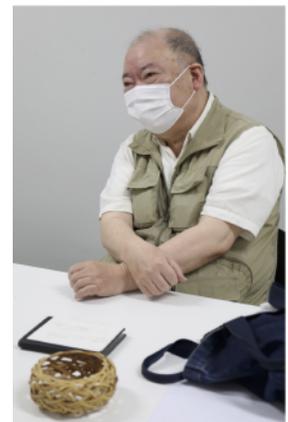
個別の議案に対しては特にご意見はありませんでしたが、その他として、以下のご提案とご意見をいただいております。

- ・「（コロナが収束したら）産地見学会等を楽しみにしている。」
- ・「下半期～来年度にかけて研究会のあらたな事業が展開できれば活気もでます」
- ・「産技研に所蔵されている工業試験場時代の工芸品を見ることができないか」
- ・「竹編組勉強会の再開を望んでいます」

ご意見については事業企画Tとも共有して今後の企画作成に反映してまいります。

新企画 会員さんロングインタビュー 第1回は、小川進（竿頭齋）さん

事務局では、研究会のベテランの会員さんに工芸の仕事や今までのあゆみについてじっくりとお話を伺う「ロング・インタビュー」を企画しています。その第一弾として、竹工芸の小川進（竿頭齋）氏に竹工芸を志すきっかけや修業時代のエピソード、作り手に求められる姿勢など、お話を伺いました。次号以降、ご紹介してまいります。今後、是非この会員さんのお話を聞いてみたい！とのご希望などございましたら、事務局までお寄せください！



産技研トピックス

産技研 360° バーチャルツアー！



京都市産技研のウェブサイト(<http://tc-kyoto.or.jp>)に「バーチャルツアー」のページが開設されています。PCやスマホにより産技研館内（1階）を3Dビューで「見学」できます。

（専用ゴーグル等があればVR映像としてもご覧いただけます。）

京都の伝統技術を結集して製作した百周年記念モニュメント時計、産技研の成果をご紹介する「京乃TANA」、伝統産業技術後継者育成研修（陶磁器、漆工）の修了作品、漆塗・蒔絵が施されたエレベータ扉などを居ながらにしてご自由にご覧いただけます。是非、ご訪問ください！



事務局より

- 2021年9～12月の主な予定
9月29日 第2回委員会
*月1～2回適宜 事業企画チームミーティング

京都工芸研究会フェイスブック (@kyotonokougei) は随時更新しています。ぜひご覧ください！

- 会員消息（退会） 松木眞澄（染織）

つぶやいていいですか

この度、9月末日を以って京都市産業技術研究所を退職することとなりました。会員の皆様には工芸のみならず、仕事とは、京都とは、様々な勉強をさせて頂きました。本当に有難うございました。今後の研究会のご発展を祈念しております。

（木戸雅史）